



# ききょうだより

山県市立  
美山小学校  
第 7 号  
令和 元年  
9月27日

====教育目標：『磨き 輝き 未来をともに拓く』====

ようやく涼しくなってきました。運動会は台風接近の予報で3日後の実施としました。平日実施にもかかわらず、多くの保護者・地域の方々に来ていただきました。日程変更のため実現しませんでした。中学生による後片付けボランティアを募集し、20名が手を挙げてくれました。保護者の多くの方にも後片付けをお手伝いいただきました。本当にありがとうございました。

## 全国学力・学習状況調査結果について

今年4月中旬に6年生が行った全国学力・学習状況調査の結果が出ました。個人の結果は、今後児童との二者懇談で渡す予定です。美山小の正答P(対全国比)は以下のような結果でした。

教科	国語	算数
正答P(対全国比)	87.8	97.6

### 【参考】昨年度の結果

教科	国A	国B	算A	算B	理科
正答P(対全国比)	102.2	92.7	104.9	85.6	104.8

(全国平均を100とした場合の美山小平均正答ポイント)

昨年度までは、国語・算数は「知識・技能」を問うA問題と「活用能力」を問うB問題に分かれていました。今年は「知識・技能」「活用能力」とともに問う問題のため、ABに分かれていません。なお、理科はほぼ隔年実施です。

平均値としては、算数はほぼ全国平均レベルと言えますが、国語は全国平均を10ポイント以上下回っています。また、正答率30%未満の児童の割合は、国語18%、算数8%です。この結果から、国語力の底上げは学校としての課題ととらえています。

国語の問題を少し細かく見てみます。正答率が低いのは次のような問題でした。

問 題	正答率
漢 調査のたいしょう (対象)	29%
友達にかぎらず (限)	45%
字 かんしんをもって (関心)	20%
1文を接続語「そこで」を使い2文に書く	26%

いかがでしょうか。それ程難しい問題とは思えません。漢字は、ドリルを用いて繰り返し練習し、学期末には50問テストをやり、合格できるまで粘り強く取り組んでいます。しかし、正答率を見ると期待した数字は得られていませ

ん。国語・算数ともに問題数は14なので、この4問の内半分の2問正解すれば、正答率(対全国比)は、110となり、平均を10ポイント上回るようになります。難しい事ではないように思えます。今後6年生は、習った漢字を確実に使わせたり、書いた字をペアで確認させたりすることで漢字の力を伸ばしていこうと考えています。さらに、自分の考えを分かりやすく話す力を高めるため、朝の会での「スピーチ」を継続し、その内容を厳しくチェックする気運を高めることが必要と考えています。

以上は、美山小としての考察や学年としての取組についてです。しかし一番大切なのは、一人一人が、どの問題ができて、どの問題ができていないのかをきちんと知ることです。その上で、どの問題ならできそうかを考え、どんな努力をしていくとよいかをはっきりさせ、その方向で努力を継続することです。つまり「努力すべき事」と「努力すべき事の優先順位」を明らかにし、勉強の意味を考えながら地道な努力を継続することこそ大切だと思います。

少子高齢化は今後も進みます。外国人労働者数も確実に増加します。科学技術の発展により、人工知能(AI)の研究開発が加速することで、我々の暮らしは豊かなものになると考えられています。一方で、2045年には人工知能は人間の脳を超えるシンギュラリティ(技術的特異点)に到達するといわれています。その時、自分にはできない技術、技能や思考力・判断力、他者への配慮、弱者をいたわる優しさを身に付けていきたいものです。社会がどんなに変化しても、「他人に迷惑をかけず、自分の稼ぎで生活する」力を身に付けることが大切です。そのために、今すべきことやできることを学年ごとに意識して勉強や生活をしなくてはなりません。将来の自立に向かって。(校長 河村 一彦)